

北海道農業の未来を拓く広報誌

HAL だぶり

Hokkaido Agricultural Laboratory
for Business Development



CURRENT TOPICS

新たな外国人材の 受入れについて

The fellowship

農業経営モデル紹介

有限会社コスモス(清水町) 代表取締役 **安藤智孝氏**

HAL
Hokkaido Agricultural Laboratory
for Business Development

<http://www.hal.or.jp>

新たな外国人材の 受入れについて

2018年12月に「出入国管理及び難民認定法及び

法務省設置法の一部を改正する法律案(以下、入管法・設置法改正案)」が成立、

同月14日に公布され、今年4月1日から新たな在留資格

『特定技能』による外国人材の受入れが可能となりました。

新たな在留資格新設の背景

日本では外国人労働者を、経済社会の活性化や国際化を図る観点から、専門的・技術的分野のスペシャリストに限定して積極的に受入れてきました。一方で、いわゆる単純労働者の受入れについては、国内の労働市場や国民生活への影響が大きいと考えられることから、十分な国民的な議論が必要との考えを取ってきました。

しかし、少子高齢化による労働力人口の減少と、経済状況の持ち直しにより有効求人倍率が高水準を維持する中で、経済団体や商工団体の要望もあり、また、韓国や台湾などの近

隣諸国でも労働力不足に対して外国人労働者を受入れることから、国際的な人材の争奪戦に負けないために、単純労働者の受入れにもなる新たな在留資格が創設されることとなりました。

海外に目を向けると、EU諸国やアメリカでは、海外からの移民が失業率の上昇や社会保障、治安維持などの国民生活に対する大きなリスクとなっていることがクローズアップされています。このような不安感から、わが国においても今回の取り組みが移民政策に当たるのではないかとの議論がされており、

これに対し担当大臣は、移民の定義を「期限を設けることなく、何らか

の資格活動を前提・要件とせずに、家族の帯同を認め、一定の規模を受け入れることによって国家を維持している」とする政策」と答弁しており、新たな制度においても、①在留期間、②技術水準の確認、③家族帯同の可否についてはそれぞれに要件を定めています。また、受入れる人数についても不足の状況に応じて見直しを行うとしています。より高い技能レベルが求められる特定技能2号の場合、在留期間や家族帯同(配偶者、子のみ)も認められており、より移民に近い性格を持つていると思われませんが、現状では「建築」、「造船・船用工業」の2分野に限られており、将来的に指定分野が拡大されるのか注目されます。

制度の概要

特定技能外国人を受入れる分野については、生産性の向上や国内人材確保のための取り組みを行ってもなお、人材確保が困難な産業分野が指定され、農業を含む14分野が特定産業分野に指定されています。

特定技能1号は、「特定産業分野に属する相当程度の知識又は経験が必要とする技能を要する業務に従事する外国人向けの在留資格」としており、「相当程度の知識又は経験」については、技能実習2号修了レベルとされ、国内外で実施される技能と日



本語の試験に合格するか、技能実習2号の修了生であることが求められています。

農業分野においては、技能試験の種類が「耕種農業全般」と「畜産農業全般」の2種類となっています。例えば、「耕種農業全般」の技能試験に合

	特定技能1号	特定技能2号	技能実習
在留期間	通算5年	更新制(期限なし)	技能実習1号 1年以内 技能実習2号 2年以内 技能実習3号 2年以内
技能水準	相当程度の知識又は経験 技能実習2号を良好に修了	熟練した技能	なし
受入れ機関の 人数枠	なし	なし	常勤職員の総数による
指定産業分野	建設、造船・船用工業、ビルクリーニング、素形材産業、産業機械製造業、電気・電子情報関連産業、自動車整備、航空、宿泊、農業、漁業、飲食物品製造、外食業	建設、造船・船用工業	送出国のニーズがあり公的な技能評価制度が整備されている職種 農業では、施設園芸、畑作・野菜、果樹、養豚、養鶏、酪農
家族の帯同	不可	可能(配偶者、子)	不可

格している特定技能外国人が夏場に畑作農家で働き、冬期間は酪農場に職場を移して働くこととする場合は、新たに「畜産農業全般」の技能試験に合格する必要があります。

外国人材の就業先となる受入れ機関(農業の場合、農家やJAなどは、

①労働、社会保険、租税関係法令を遵守し、②6か月以上継続して雇用した経験を持ち、③1年以内に非自発的離職者や行方不明者を発生させておらず、④5年以内に出入国・労働法令違反がないこと等が条件とされ、さらに、受入れに際しては、特定技能外国人が職場や日常生活、社会生活において問題なく安心して過ごせるように、入国時の出迎えや、住居賃借契約時の保証人、相談や苦情の対応、失業時の次の職場探しなどの支援計画を策定し実行する必要があります。この支援計画については、外国人技能実習制度における管理団体に似た組織にあたる登録支援機関に委託することが可能で、農業の場合、実際の制度運営時に

は、委託により行うケースがほとんどだと思われます。

外国人技能実習制度との関連

外国人技能実習制度では、実務に就きながら優れた技能を習得することを目的としていることから、労働基準法の第41条の適用除外を受けることがなく、農業での技能実習であつても、労働時間や休日などに関する規定の対象とされています。しかし、特定技能外国人の場合は、一般的な労働者と同じ扱いとなるので、農業分野で働く場合には第41条の適用除外の対象となります。ただし、業界としての人材確保の努力として、周年で計算した場合に週の労働時間が40時間に収まるようにシフトを組むなどの対策を取り、農業以外の業種と遜色ない就業環境の整備を進めていくことが大切です。

特定技能外国人として求められる「知識又は経験」と同等なものとして技能実習2号の修了が含まれていることから、過去に技能実習2号に合格し、実習を終えて帰国している元外国人技能実習生や、技能実習2号の習得を目指し実習を受けている外国人技能実習生が特定技能外国人の有候補となると考えられます。この

中で、日本国内にいる外国人技能実習生を候補とする場合、研修計画の途中で特定技能外国人に切り替えをすることはできないので注意が必要です。これは、技能実習の目的は技能の習得であり、計画された実習計画を途中で打ち切ることが、予定としていた技能習得の目的を果たせないことになるの考えからです。

技能実習制度では、実習生に事前の研修費用や渡航費として多額の借金を負わせる悪質なブローカーの存在が問題視されており、この対策として送り出し国との協力覚書を取り交わすこととしていますが、5月末の時点でフィリピン、ミャンマーなど5か国としか交わすことができていません。つまり当面の間、外国人材は、国外で技能試験に合格して入国を果たすルートではなく、技能実習終了後に特定技能に移行するルートが主流になると考えられます。この場合、技能実習の時期から働きやすい職場環境づくりに努め、外国人材にとっても選ばれる職場であることがスムーズな外国人材の確保にもつながることになります。生産性の向上や国内人材確保のための取り組みを継続的に行い、誰もが働くことのできるバリアフリーな就労環境を整備していく事が農業においても求められます。

From

北海道農業法人協会

2019.Summer

第24回定期総会・農業法人経営セミナー2019



平成31年2月20日（水）、ANAクラウンプラザホテル札幌にて、北海道農業法人協会第24回定期総会ならびに北海道農業法人化等支援協議会共催による農業法人経営セミナー2019を開催いたしました。

定期総会では、平成30年度事業報告として一年間の活動報告が行われたほか、平成31年事業計画ならびに予算案が提出され、『次世代に繋ぐ更なる組織活動の成長をめざし、会員各位の経営の高度化に資する組織活動を目指す』を基本方針に、活動を行っていくことが承認されました。また、2020年1月に新たに一般社団法人北海道農業法人協会を設立し、組織

を移行することを提示し、新たな組織の定款（案）ならびに会員会費・運営規定（案）を説明いたしました。

農業法人経営セミナー2019では、CSA（Community Supported Agriculture）のルーツとなった『生活クラブ』の設立者のおひとりで、生活クラブ生協連合会の河野栄次顧問をお招きし、生産者・消費者にとって最適な流通の仕組みと将来的な食料の安定生産、確保の観点について、お話を伺いました。

講演では、国内の食料自給率の向上・食糧安全保障には、消費者を巻き

込んだ国民全体の共通概念が必要で、農業生産者には、食糧生産には時間と空間が必要であることを常に発信し、自らの農産物については『今年の味』として表現して欲しいとの要望が語られました。また、会場からの「元氣

の秘訣は？」という質問には、「リーダーは批判を受けることを楽しみとしなければならぬ」と述べ、経営者やリーダーとしてのあり方についても貴重なお話を頂きました。

セミナーの後半では、平成30年度の北海道農業法人協会活動について、写真スライドを用いて、各種イベントに参加した役員・会員が紹介し、新年度事業への参加を呼び

かけました。

セミナー終了後には、生産者会員やサポーター会員のほか農政担当から約130名が参加しての懇親会が行われ、南会長の挨拶の後、日本政策金融公庫大本浩一郎北海道地区営業統轄兼札幌支店長の発声により開宴し、生産者会員の食材を賢沢に使った料理が振

舞われ、有意義な情報交換が会場各所で行われていました。



北海道農業法人協会1月~6月の主な活動

- 1月 9日 北海道農業法人化等支援協議会経営戦略会議(札幌)
- 10~14日 国外交流研修(マレーシア・シンガポール)
- 17日 第11回のぶし経営塾「女性経営者の話を聴く会」(札幌)
- 22日 第15回北海道・東北ブロック農業法人組織会長・事務局合同会議(盛岡)
- 北海道農業法人化等支援協議会経営戦略会議(札幌)
- 上川管内農業法人ネットワーク農業法人等スキルアップ研修会(旭川)
- 日高農業生産法人会第4回総会・第2回研修会(新ひだか)
- 24日 第4回役員会(札幌)
- 31日 食の地域創生リーダー養成塾第6回運営委員会・企画委員会合同会議(札幌)
- 2月 5日 北海道農業法人化等支援協議会経営戦略会議(札幌)
- 8日 いぶり農業法人ネットワーク設立総会(苫小牧)
- 12日 日本農業法人協会4委員会・第19回都道府県会長会議(東京)
- 13日 北海道農業・農村労働力確保対策検討推進会議及び北海道農業分野農福連携推進会議(札幌)
- 19日 北海道農業法人化等支援協議会経営戦略会議(札幌)
- 20日 第24回定期総会・農業法人経営セミナー2019(札幌)
- 21日 第1回のぶし経営塾「水田部会 勉強会」(札幌)
- 3月 4日 第2回のぶし経営塾「酪農に関するホクレンとの意見交換会」(札幌)
- 7・8日 日本農業法人協会第38回総会(臨時)・春季セミナー(東京)
- 13日 北海道農業法人化等支援協議会幹事会経営戦略会議(札幌)
- 12~17日 インターンシップ協定調印式(インドネシア)
- 22日 第3回のぶし経営塾「水田部会 コメ流通に関する意見交換会」(札幌)
- 25日 北海道農業法人化等支援協議会第2回通常総会(札幌)
- 25・26日 第5回次世代農業サミット(東京)
- 4月 1日 第1回三役会(札幌)
- 10日 第1回役員会(札幌)
- 18日 ねむろ農業法人ネットワーク大5回通常総会(中標津)
- 25日 都道府県農業法人組織事務局担当者会議(東京)
- 5月 15日 北海道農業法人化等支援協議会幹事会経営戦略会議(札幌)
- 28日 日本農業法人協会4委員会・第20回都道府県会長会議(東京)
- 29日 北海道農業法人化等支援協議会令和元年度第1回通常総会(東京)
- 6月 18日 第2回役員会(札幌)
- 26日 北海道農業法人化等支援協議会経営戦略会議(札幌)
- 28日 北海道地域農業特定技能協議会(札幌)
- 29日 八紘学園「農業のしごと相談会」(札幌)

The Fellowship



member's interview

Vol.52

※フェロウシップ(fellowship)とは、仲間である事、友情、協力などを意味する言葉。HAL財団では北海道農業に携わる方々とのフェロウシップを大切に、それぞれの経験や事例を共有・意見交換することで、北海道農業の発展に貢献したいと考えています。

農業経営モデル紹介

第14回HAL農業賞 優秀賞

有限会社コスモス(清水町)

代表取締役 安藤智孝氏



ブラウンスイス牛の肥育を収益化
牧場のファンを増やし直接販売へ

1987年、ホルスタインの雄を肥育する畜産牧場として、素牛80頭からスタートした有限会社コスモス(十勝清水コスモスファーム)。子牛の哺育、ブラウンスイスの雄の肥育、黒毛和牛の繁殖と事業を拡大し、飼養頭数2400頭の牧場へと成長しました。2014年に入社した安藤智孝さんは、赤字化していた子会社の整理を担当して加工販売部門を新設。未利用資源だったブラウンスイス牛の商品を開発し、収益化しました。2018年5月に代表取締役に就任し、飼養頭数を絞りつつ1頭当たりの収益性を2倍にする経営に取り組んでいます。

TPPに負けない経営で
スタッフの生活を守る

有限会社コスモスは、JA職員としてホルスタインの雄牛の肥育を指導していた父・安藤賢治が、自ら実践しようと設立した農業法人です。父は起業3年後の1990年に事故で亡くなりましたが、牧場を畳んでも1億円の借金が残ること、スタッフが意欲的だったことから経営が継続されたと聞いています。私が小学生の頃のことです。



私は牧場を継ぐ気持ちは全くなく、関東に進学してアメリカ留学も経験し、大学院で経済外交史の研究職を目指しました。その後、若者の国際的視野を養う教育プログラムの研究・実践に関わりました。

北海道に戻ったのは28歳のとき。妻の妊娠をきっかけに、子育てしやすい環境を求めたことです。帯広市役所に就職し、3年後に市内の金融機関に2年間出向、その後は市内中心部の街づくり事業に関わりました。その頃に、PPPが現実性を帯びて話題になりました。

「うちの牧場は潰れる」と思いました。牧場の負債は12億円になっており、

売却しても借金が残るかもしれない。母一人ぐらいは私が食べさせてやるけど、牧場で働いている人たちの生活はどうなるだろう、と考えました。

私は父を早くに亡くしたこともあって僧侶と親しく、職業として考えたこともありません。殺生に直接関わる畜産業を避けたい気持ちがありました。肉は食べるので矛盾しますが、自分の中で何か納得感がなかった。けれど、私の納得感よりも牧場で働いてくれている人たちの納得感のほうが大事、創業者の息子が全力で経営に当たって、それでダメなら仕方ないと言えるんじゃないか。そう考えて、2014年4月から牧場で働く決断をしました。

牧場をブランディングし オンリーワンの商品を開発

私は牛舎の掃除から学ぶ気でしたが、まずは子会社である株式会社風車の建て直しを命じられました。牧場から8000万円をつぎ込んでなおも赤字が続いているガソリンスタンドと飲食店の事業です。ガソリンスタンドは配送事業以外をクロース。飲食店は旧態のドライブインから観光客が立ち寄る牧場直営店へと転換しつつ、委託製造での自社商品の開発をスタートさせました。

そのときに着目したのがブラウンスイスです。ブラウンスイスの雄牛は、通常は生まれてすぐに廃牛にされます。コスモスファームでは8年前、手違いでブラウンスイスが届いたことから「生まれてきた命を無駄にしたいくない、きちんと育てて送り出してやりたい」という母の想いによってこの種を肥育するようになったいました。ですが、ホルスタインではないことからJA十勝清水のブランドである「十勝若牛」には認定されず、販売価格は米国産輸入牛と同等レベルの安さでした。

私はこのブラウンスイスの子牛を継続的に購入・肥育して安定供給できる体制を作り、一方で牛肉品質を研究。和牛と同等レベルの旨味があり、



かつ脂が少ないという特徴を活かしてコンビーフを開発しました。健康志向の消費者を意識し、無添加での商品化です。

この商品は「北のハイグレード食品十」や農林水産省の「フードアクションニッポンアワード2016」などを受賞し、2014年10月の発売開始以来、順調に売上を伸ばしました。そこでレストランを閉鎖、株式会社風車をコスモスファームの販売事業部としました。その後もこの事業がプラス収支で移行していることから、事業と社員を有限会社コスモスに吸収し、株式会社風車は今年9月に解散予定です。



社員の納得感と共に豊かに暮らせる経営へ

2018年5月に有限会社コスモスの代表取締役就任し、会社の目的（存在意義）を「社員とその家族の安定した幸せな生活」と決めました。そのため今、飼養頭数2400頭から1000頭へのダウンサイジングを行っています。従業員数は同じですが、1頭当たりの収益性を2倍にすれば、余裕を持って牛飼いができる。薄利多売モデルから転換し、借金を返しつつ収益を上げ、スタッフの給料を上げることを目指します。具体的には、牧場長の年収を4桁万円にしたいですね。牧場を4部門に分け、販売事業部



門は総務を兼ねたマネジメント部門としました。ここで今、力を入れていくのが、5000人のファンを作るプロジェクトです。アクティブなファンが5000人いれば、うちの商品は卸しを介さずにダイレクトマーケティングができます。2年後の達成を目指し、まずは1万5000人の顧客情報を集めています。和牛部門では、繁殖・哺育・育成・肥育まで手掛け、加工方法を選択し、ファンに向けて販売します。肥育牛は来年11月から月6頭、年間72頭のみを出荷します。これが顧客に価格決定権を



持つて提案・販売できる数です。繁殖は2年後に300頭にし、子牛を売却してその収入を過去の借金の返済に充てます。

F1部門では、初生牛を購入して哺育育成し、年間150頭を転売します。これは社員の人件費分で、利益が増えるほど給料がアップすることになります。また、創業時から続けてきたホルスタインの肥育からは撤退しますが、利益はF1部門の事業と同じな経営ができるからです。

ブラウンスイスの肥育部門はコスモスファームのフラッグシップと位置付けています。販売事業の柱でもあります。

このほか繁殖を終えたブラウンスイスの再肥育も始めており、オーダーに応じた肉に仕上げる事業が軌道に乗ったところです。牛の命を無駄なくいた

だくこと、これは人間本位の勝手な話ではありませんが、生まれてきた命(牛)に「うちの牧場に来て良かったね」と言ってもらえる、そういうスタッフと牧場であってほしいと思っています。そういう牧場のファンになってくれた方々に、大切に育てて作り上げたものを、大切にお渡しする。これがコスモスファームの目指すダイレクトマーケティングです。

社長になってからの1年間は、シンブルにやるべきことにフォーカスできるよう、無駄なものを捨てて整理し、チーム作りを行ってきました。変化にも納得感が大事だと私は思っています。今、それが形になりつつある。荒稼ぎをしようというのではなく、私を含めた牧場スタッフ全員とその家族が豊かに暮らせるだけのマーケットを作っていきたいと考えています。

DATA



農業法人 有限会社コスモス(十勝清水コスモスファーム)

所在地 / 清水町御影南5線51番地7
設立 / 1987年
資本金 / 2000万円
売上 / 8億円(2018年度)
社員数 / 14名
経営面積 / 8ha
事業内容 / 肉用牛一貫生産(ブラウンスイス、黒毛和牛、和牛交雑)、牛肉販売・加工

第15回 HAL 農業賞応募要領

一般財団法人北海道農業企業化研究所(HAL財団)(理事長 磯田憲一)では表彰事業として「第15回 HAL農業賞」を実施いたします。

この表彰は北海道農業の発展に多大な貢献、功績を挙げた個人および法人・団体を表すことで、北海道農業を活性化し、農業の企業化を促進させるために2005年(平成17年)に創設したものです。

従来の表彰の多くが過去の実績に対し表していたのに対し、「HAL農業賞」では過去の実績に加え、事業計画やビジョンなど未来に向けた取り組みも選考の基準にしています。

記

- 名称：第15回HAL農業賞
- 主催：一般財団法人北海道農業企業化研究所
- 募集期間：2019年8月1日(木)～9月13日(金)
- 表彰日時：2019年12月または2020年1月予定

応募条件

北海道に居住もしくは本拠を置き、以下の条件のいずれかに合致する個人および法人・団体。
 ①北海道農業の発展に多大な貢献、功績が認められる個人および法人・団体。
 ②北海道農業を活性化し農業者の収益を向上させるため、他の事業や業態を取り組んだ企業化を計画・実施している個人および法人・団体。

応募方法

所定の応募用紙に必要事項を記入のうえ、郵送または電子メールで応募。
 応募は、自薦または他薦。
 (応募用紙は電話、FAX、メールにて請求するか、財団ホームページからダウンロードしてください)
 URL:<http://www.hal.or.jp>

表彰内容

一般財団法人北海道農業企業化研究所の役職員および有識者で構成する「選考委員会」で審査し、優れたものに対し次の賞を授与します。

各賞(予定)	HAL農業賞大賞(賞金100万円)1件 優秀賞(賞金50万円)のほか数件を予定。
--------	---

結果発表

2019年12月上旬(予定)
 決定後、財団ホームページ上でお知らせいたします。

お知らせ

北海道農業経営相談所では専門家の派遣を行っています

北海道農業法人化等支援協議会(北海道農政部農業経営課・北海道農業法人協会共同事務局)が運営する北海道農業経営相談所では、農業経営上の様々な悩み事を解決するための専門家を無料で派遣しています。

「経営継承を考えたい」「法人化を検討したい」「従業員を雇うのに就業規則をつくりたい」など、皆さまの農業経営の歩みに寄り添い、伴走支援いたします。

ご相談・連絡先／TEL.011-209-0155